

平成23年度 先駆的保健活動交流推進事業

保健師活動強化

コンサルテーション事業

報告書



# 中堅期保健師 コンサルテーション プログラム (行政分野)

平成24年3月


公益社団法人 日本看護協会

平成23年度 先駆的保健活動交流推進事業

保健師活動強化

コンサルテーション事業

報告書

中堅期保健師   
コンサルテーション  
プログラム (行政分野)

公益社団法人 日本看護協会

## 目

## 次

はじめに .....	1
本報告書の概要 .....	2
I. 中堅期保健師コンサルテーションプログラムの概要 .....	5
1. 目的・目標 .....	5
2. 対象者 .....	5
3. 開催日 .....	5
4. 時間数 .....	5
5. 開催場所 .....	5
6. プログラムの特徴 .....	6
II. 中堅期保健師コンサルテーションプログラムの流れと内容 .....	7
1. コンサルテーションプログラムの流れ .....	7
2. 受講者の募集から選考まで .....	7
3. 受講決定から集合プログラム開催前まで .....	8
4. 集合プログラムへの参加と自組織での実践 .....	11
5. 「能力強化のための実践」について .....	11
6. コンサルテーションプログラムの内容 .....	12
III. 中堅期保健師コンサルテーションプログラムの実施結果と課題 .....	20
1. 実施結果概要 .....	20
2. プログラム内容の変更について .....	22
3. 課題 .....	23
4. 受講者の実践事例 .....	24
1) 母子保健活動 .....	24
2) 生活習慣病予防活動 .....	34
3) 介護予防活動 .....	43

IV. 考察 .....	54
1. 受講者に求められる要件とは（佐久間委員）.....	54
2. 今後の自己研鑽のあり方について（宇田委員）.....	58
3. コンサルテーションプログラムを運営するコンサルタントに必要な要件について （堀井委員）.....	60
V. 総括 ープログラムの評価と今後への展望ー（中板委員長） .....	64
VI. 資料 .....	69
1. 講話集	
1) プログラム実践の意義 ー能力強化のための活動ー .....	70
2) コンサルタントからの中堅期保健師へのメッセージ .....	78
2. 評価・アンケート結果（自己評価結果、プログラム評価結果、アンケート結果）.....	87
3. 平成 22 年度受講者その後の取り組み .....	95
4. 募集要項や様式等 .....	97
受講者一覧 .....	119
委員会開催状況・名簿 .....	120

はじめに

---

多様化複雑化した健康課題の解決に向けて保健師の活躍が期待されている中、中堅期の保健師には、事業推進の中核的な役割と新任保健師の教育を担える高度な能力が求められています。このような背景をうけ、本会では、平成 22 年度より、市町村の中堅期保健師の力量形成をねらった「中堅期保健師コンサルテーションプログラム」の開発、実施、評価、構築をしてまいりました。

平成 23 年度は、コンサルテーションプログラムの更なる精錬を行うとともに、普及の方法、実施体制についても検討いたしました。検討に際しては、「中堅期保健師コンサルテーションプログラム(行政分野)検討委員会」を設置し、コンサルテーションプログラムの企画、評価や、定着、普及のための要件等について、話し合いを重ねました。結果、座学だけではなく実践を踏まえ、コンサルタントの助言のもとに経験を振り返るなど、次期リーダーを担うにふさわしい育成プログラムになったと自負しております。

今後は、プログラムでの指導者であるコンサルタントの育成を行うことで、さらなるプログラムの普及と実施体制の構築を目指し、統括保健師の育成体制についても検討し、保健師が専門性を発揮する基盤作りに向けて検討したいと考えている所存です。

今般、そのプログラムの実践結果を報告書としてまとめました。次代を担う中堅期保健師の人材育成に是非ご活用いただければ幸いに存じます。また、末筆になりましたが、検討委員の皆様をはじめ関係機関、都道府県看護協会等、多くの皆様のご協力に対し、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

平成 24 年 3 月 31 日

公益社団法人 日本看護協会  
常任理事 井伊 久美子

## 本報告書の概要

---

### 1. 目的

本会では、平成 22 年度より、市町村の中堅期保健師の力量形成を目的に「中堅期保健師コンサルテーションプログラム」を開発、実施、評価、構築をしてきた。平成 23 年度は、コンサルテーションプログラムの更なる精練と、普及の方法や実施体制のあり方についての検討を目的に事業を実施したので、その概要を報告する。

### 2. 実施内容と方法 (各種記載様式はVI. 資料に掲載)

---

#### 1) コンサルテーションプログラムの実施

昨年度開発した内容を基本としながらも、受講者の状況に合わせて、講義やコンサルテーションの内容をその都度、検討しながら進めた。

##### (1) コンサルタントの配置

コンサルテーションプログラムの実施に当たり、検討委員の中から保健師教育に熟練した実践者 5 名をコンサルタントとした。

##### (2) 受講者の取り組み

受講者は、講義の受講やコンサルタントの助言を受けながら、各自の課題テーマについて自組織での実践に取り組み、その成果をまとめた。

##### (3) コンサルテーションプログラムの実践期間

実践期間は、平成 23 年 7 月末の実践課題の取り組みから、平成 24 年 2 月初めの最終課題提出までの約 6 か月とした。

また、集合プログラムは、日本看護協会 JNA ホールを会場に以下の日程で開催した。

前期コンサルテーションプログラム	平成 23 年 8 月 8 日～9 日 (2 日間)
中間プログラム 3 回	平成 23 年 8 月 31 日、9 月 30 日、11 月 30 日 (各 1 日)
後期コンサルテーションプログラム	平成 24 年 1 月 27 日～28 日 (2 日間)

#### 2) コンサルテーションプログラムの精練

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(行政分野)検討委員会(委員 7 名: 3 回開催/年)を設置し、以下 2 点を諮問事項とし検討を重ねた。

- ① 事業の進捗管理、コンサルテーションプログラムの内容や評価方法について
- ② コンサルテーションプログラム定着、普及のための要件等

#### 3) 本プログラム普及の方法や実施体制のあり方についての検討

##### (1) 検討委員会での検討

受講者やコンサルタント、都府県協会等のオブザーバーの出席を得て、その意見を聴取しながら、検討委員会で今後の方向性を検討した。

##### (2) 合同拡大会議での検討

各都道府県看護協会保健師職能委員長や関係団体、自治体や企業に働く保健師に参集いただき「合同拡大会議」を開催(平成 24 年 3 月 3 日)、行政産業を問わず保健師全体の現任教育のあり方について意見交換した。

### 3. 結果

---

#### 1) コンサルテーションプログラムについて

コンサルテーションプログラムの骨子が完成した。また、コンサルテーションプログラムの開催は、滞りなく終了した。

- (1) 受講者の状況
    - ・ コンサルテーションプログラムの申し込み者は 16 名あり、全員を受講者と決定した。修了者は 15 名、平均年齢は 41.5 歳であった。
  - (2) プログラムの内容
    - ・ 受講者の評価結果より、本プログラムの意図は概ね理解されたことがわかった。
    - ・ 受講者の感想からは、通常の業務と並行しながら多忙の中、組織を巻き込みながら実践していくことに困難を感じつつ関係職種と連携して事業を展開していく過程で、自分の中堅期保健師としての強みや弱み、現在の立ち位置や課題を考える機会となったことが窺えた。
  - (3) プログラムの構成
    - ・ テーマの設定、集合プログラムの開催回数はおおむね妥当だった。
    - ・ 集合プログラムの間隔やプログラム全体の長さについては 30%強が、「時間が短く十分な実践が取れない」と回答した。
  - (4) 受講者の力量強化
    - ・ 受講者の自己評価結果（88-92 ページ）からは、「基本的能力」「行政能力」「専門能力」「指導力」ともに受講後の前後の比較では評価が上昇しており、受講者は能力の強化が図れたと実感していることがわかった。中でも、「指導力」の上昇幅は大きかった。
    - ・ 受講者の評価理由からは、中堅者の役割を改めて理解したことで自らの内省と現状認識につながり、さらに実践に取り組んだことで自己の課題を再確認でき、力量として強化されたと自覚されていることがわかった。
- 2) プログラムの普及に向けての次年度以降の実施体制の構築について
- (1) プログラムの開催について
    - ・ 受講者の 30%強が、東京だけに留まらず、都道府県単位または主要都市での開催を望んだ。
    - ・ 都府県看護協会のオブザーバー出席者からも、各看護協会での開催を希望する意見が聞かれた。
  - (2) 成果の公表について
    - ・ 平成 24 年 3 月 3 日「新たな保健師活動のあり方に関する合同拡大会議」を実施した。
    - ・ 事業報告書をまとめ、本会ホームページに掲載する。

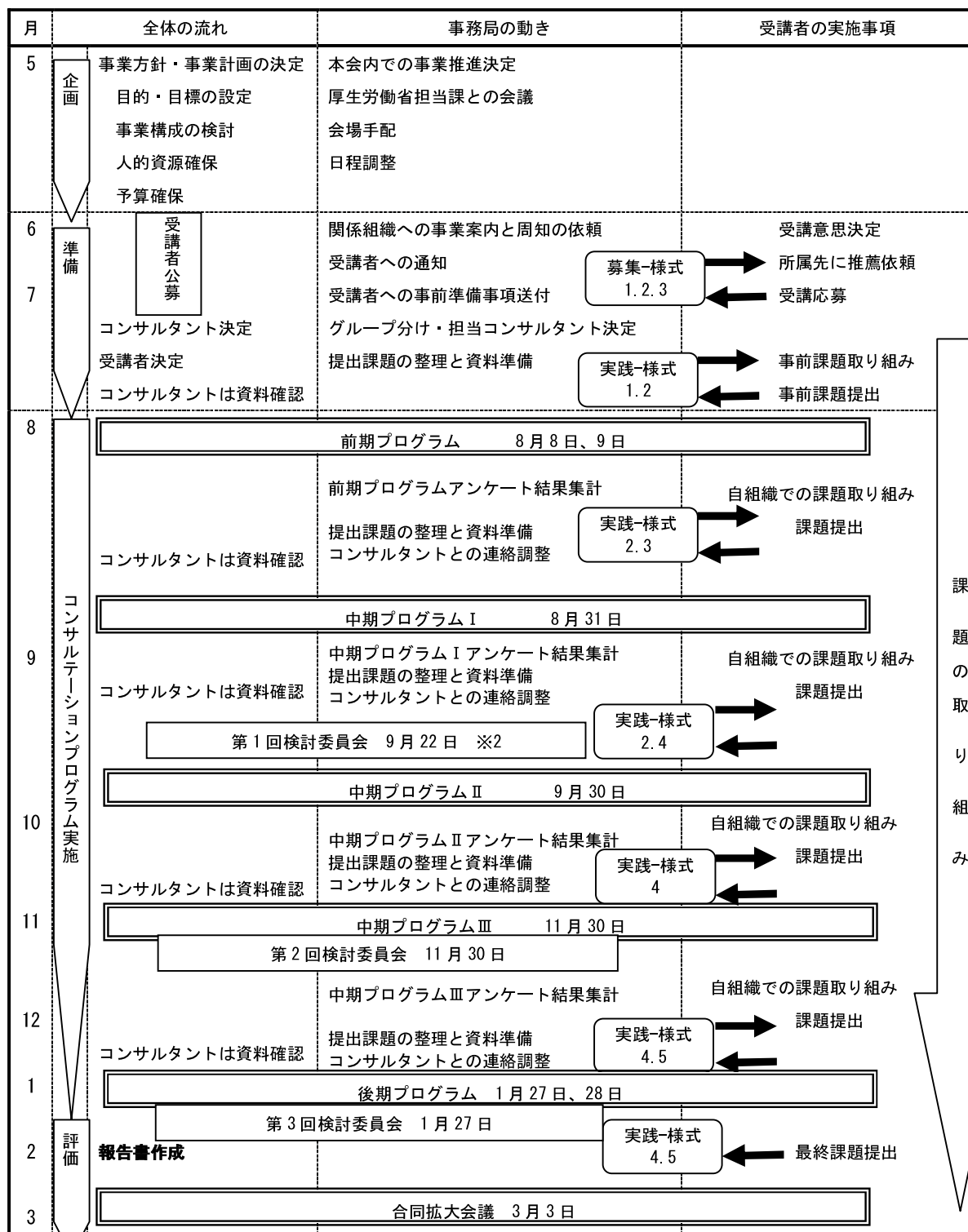
#### 4. 今後の課題

---

- (1) プログラム内容の精練について  
プログラム内容の追加について  
プログラム終了後のコンサルタントの会議の中で、受講者への「事前課題」として事前学習の強化を図ることが望ましいとされた。また、「政策提言に関する講義」も追加が必要との意見が出された。
- (2) プログラムの普及に向けた実施体制について
  - (1) コンサルタントの育成について
    - ・ プログラムの趣旨を理解しコンサルテーションを進めるため、また、東京会場のみにとどまらず普及を図っていくためには、コンサルタントの育成が望まれる。
    - ・ コンサルタントの育成は、単に集合形式での伝達ではなく、コンサルテーション実施の場での共有が必要である。
  - (2) 組織を挙げての中堅期保健師の教育を進める体制について  
継続的な教育がないと現場での実践能力を育成するには限界があるため、組織的に保健師教育を推進するための予算や人員確保が望まれるが、その対策を講じる統括的な保健師の育成も望まれる。

## 中堅期保健師コンサルテーションプログラム（行政分野）の流れ

コンサルテーションプログラムにおける実施内容と流れは下記のとおり。



※1 尚、各様式は巻末資料を参照のこと

※2 本来、検討会はプログラム開催前の実施が望ましいが、本年度は、震災の影響等の事情によりプログラム実施後に初回検討会を持った。



## I. 中堅期保健師コンサルテーションプログラムの概要

---

### 1. 目的・目標

---

#### 1) プログラムの目的

次期統括者の役割を担える中堅期保健師の育成を目指す。

#### 2) プログラムの目標

このプログラムでは、中堅期保健師に必要とされている「基本能力」「行政能力」「専門能力」「指導力」の4つの能力のうち特に「専門能力」の向上を重視する。専門能力の基盤を「公衆衛生看護」におき、特に、中堅期保健師に求められる専門能力として、「ポピュレーションを対象化する能力」「予防のための能動的な関わり」「人々と共に働く組織化の力」を位置付けた。そして、それらを到達するために必要とされる能力の育成プログラムとして以下の4つを本プログラムの目標とする。

- (1) 複雑かつ社会問題化した困難事例や新たな課題に対応するため、地域に潜在する健康課題を分析できる能力を高め、事業を展開するための実践力を向上する。
- (2) 地域・職域の健康課題に応じた事業を展開するなかから、その成果を新たな政策課題として提示できる能力を強化する。
- (3) 自組織において、中堅期保健師としての持てる力を組織で十分に発揮できるとともに、組織の活性化につながるような働きかけやシステムの改善・提案・構築ができる能力の向上を図る。
- (4) 共同で学び合うことを通して、保健師の専門性の経験知や保健師活動の真価を再認識することで、モチベーションの向上、保健師としてのアイデンティティの強化につなげる。

### 2. 対象者

---

市町村に所属し、保健事業（介護予防事業含）に携わっている中堅期の立場にある保健師で概ね10年～20年程度の実務経験を有する者

### 3. 開催日

---

- ・ 前期プログラム 平成23年8月8日(月) 9:30-17:30、9日(火) 9:30-15:00
- ・ 中期プログラムⅠ 平成23年8月31日(水) 9:30-17:00
- ・ 中期プログラムⅡ 平成23年9月30日(金) 9:30-17:00
- ・ 中期プログラムⅢ 平成23年11月30日(水) 9:30-17:00
- ・ 後期プログラム 平成24年1月27日(金) 9:30-16:00、28日(土) 9:30-15:30

### 4. 時間数

---

総時間 41.5時間 (受講者自らの課題の実践期間 約6ヶ月)

### 5. 開催場所

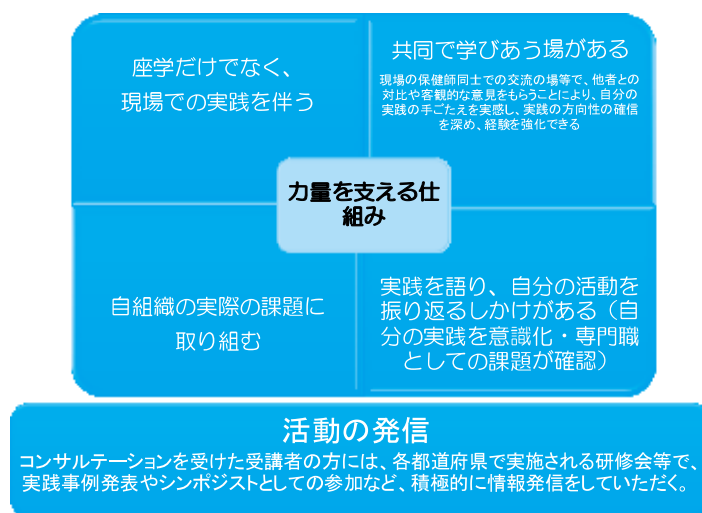
---

公益社団法人 日本看護協会 JNAホール

## 6. プログラムの特徴

### 1) 力量を支える仕組み

中堅期保健師コンサルテーションプログラムは、座学だけではなく実践を伴い、コンサルタント(指導助言者)による支援により、経験を振り返るプロセスを経ることで力量形成をねらったプログラムであり、時代の要請に応えるための次期統括者の役割を担える中堅期保健師育成プログラムである。



### 2) テーマ設定

受講者は母子保健、生活習慣病予防、介護予防の3テーマより、自組織における保健活動上の課題であり、実際に取り組むことができるもの1テーマを選択する。

### 3) グループ構成

グループダイナミクスの効果もねらい4~5名程度の編成とする。

### 4) 形式

講義形式にとどまらずグループワークを多く実施し、更に自らの業務の中で課題を展開し、実践力を培うものである。

### 5) コンサルタントの配置

1グループに1名、保健師育成に熟練した実践者を配置し、専門的な観点から指導助言を行なう。コンサルタントを以下に示す。

コンサルタント	
母子保健	中板育美 (国立保健医療科学院生涯健康研究部/主任研究官)
	佐久間清美 (愛知県立大学看護学部看護学科/教授)
生活習慣病予防	井伊久美子 (日本看護協会/常任理事)
介護予防	堀井とよみ (日本看護協会/保健師職能委員会副委員長)
	宇田優子 (新潟医療福祉大学健康科学部看護学科/准教授)

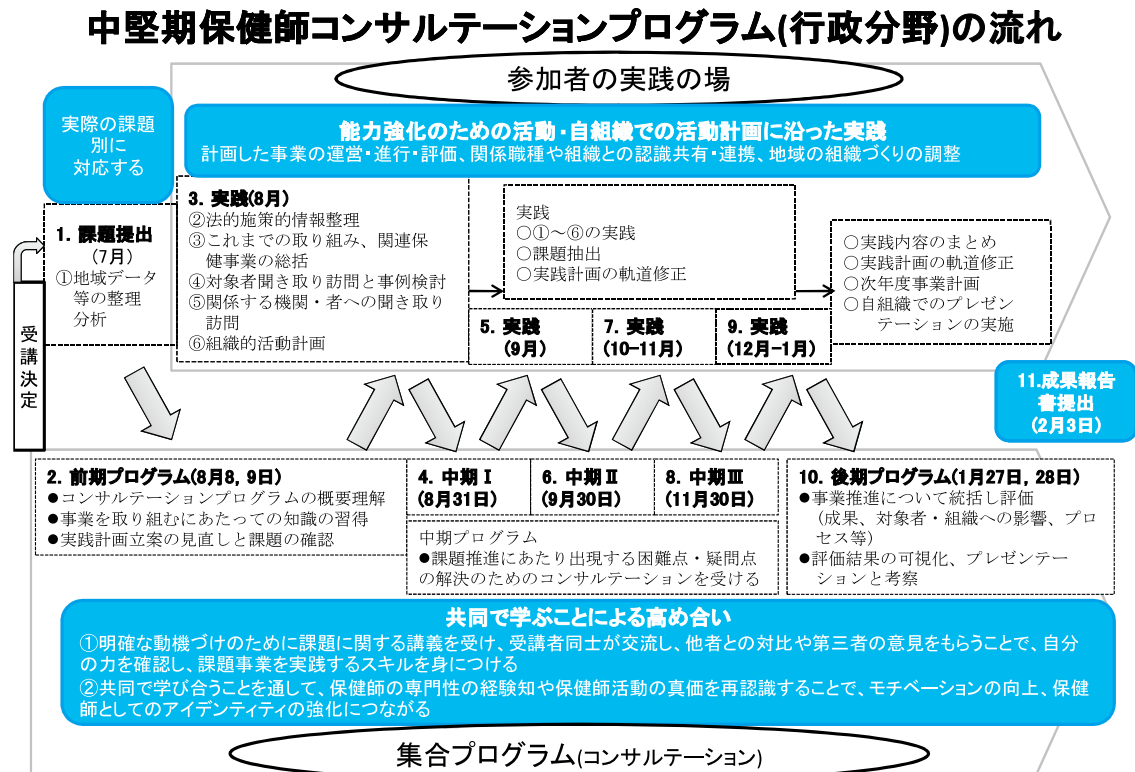
### 6) 活動の発信

平成24年3月3日に「新たな保健師活動のあり方に関する合同拡大会議」を開催し、コンサルテーションプログラムの成果と可能性について討議する。

## II. 中堅期保健師コンサルテーションプログラムの流れと内容

### 1. コンサルテーションプログラムの流れ

受講者は、5回（計7日間）の集合プログラムでコンサルテーションを受けながら、各自の組織で自己の課題に取り組む、実践を重視した流れとなっている。



### 2. 受講者の募集から選考まで

#### 1) 募集

6月20日(月)～7月1日(金)を募集期間とし、本会ホームページに要綱(97ページ)を掲載するとともに、各都道府県市町村や看護協会には応募者の推薦などの協力を依頼し、受講者を公募した。

#### 2) 応募資格

受講者は以下の要件を満たしていることを条件とした。

(看護協会会員・非会員は問わない)

- (1) 現在、市町村に所属し、保健事業(介護予防事業含)に携わっていること
- (2) 保健師実務経験を10年～20年程度を有する者
- (3) 所属の理解が得られ、プログラム実施期間を通じて継続参加できること
- (4) 自組織での組織的な実践が可能な協力体制が得られること
- (5) これまでや現在で、事業の総括やリーダー的役割を担った経験があること
- (6) 自組織で、今後、次期統括者としての役割を担っていこうとする意志があること
- (7) 本プログラムでの計画、実践、成果の記録やデータ等の提出ができること

3) 選考

受講者は、応募者の中から、以下の選考基準を設け、書類審査にて決定する。

- (1) 応募資格の要件を満たしていること
- (2) 志望動機が明確であること
- (3) 実践上の課題を持ち、解決に向けて取り組む意欲があること
- (4) 推薦者の推薦理由が明確であること

3. 受講決定から集合プログラム開催前まで

1) 事前課題（102ページ）の取り組み

事前課題の設定は、保健事業企画の前段階で基本となる「健康課題」について、保健師として十分に把握・分析し、事業展開につなげていける力量の形成・気づきを得ることを目的としている。

(1) 事前課題その1：課題図書を読む

受講者は、以下課題図書一覧から、全テーマ共通で通読必須の図書と、各自が選択したテーマ別の課題図書とを事前に読む。

テーマ	書名	著者	発行年月	出版社
全テーマ共通 (必ず目を通してください)	公衆衛生看護活動における評価の現状と課題	中板育美	2009	保健医療科学, 58(4), p349-354
	保健師のベストプラクティスの明確化とその推進方策に関する検討会報告書		2007	平成19年度地域保健総合推進事業
	生活習慣病予防のためのグループ支援【第5章】	久常節子, 井伊久美子	2009	日本看護協会出版会 p91-101
	地区診断から始まる見える保健活動実践推進事業報告書		2011	平成22年度地域保健総合推進事業

以下は、各自選択したテーマに応じて各自入手の上ご一読ください

母子保健	産後うつへ保健師はどう関わるべきか：自殺事例から学べること	中板育美	2008	保健師ジャーナル, 64(7), p584-588
	エリアマネジャーとサービスマネジャーの重層的地区活動の提案	中板育美	2009	保健師ジャーナル, 65(10), p822-829
	個別的なアプローチから地域活動へ展開した事例	中板育美	2010	実践地域看護学 (TACSシリーズ) p230-239
	相談対応の技術	中板育美	2009	保健師ジャーナル, 65(4) p264-268
	妊娠・産褥期の自殺及び自殺企図事例から学ぶ支援スタッフのかかわり	中板育美	2009	母子看護学会誌 3(2), p33-41
母子保健と子ども虐待	中板育美	2007	小児科臨床 60(4), p805-810	
生活習慣病予防	生活習慣病予防のためのグループ支援	久常節子, 井伊久美子	2009/05	日本看護協会出版会
介護予防	ケアマネジャー必携 24時間ケアプラン	村嶋幸代, 堀井とよみ	2000/05	へるす出版
	地域における介護予防の効率的・効果的な手法を探る		2010/3	社団法人全国保健センター連合会
(参考)メンタルヘルス	特集：緊急！自殺対策		2010/2	月刊地域保健, 東京法規
	特集：孤立させない自殺予防対策		2010/5	保健師ジャーナル, 医学書院
	自治体における精神保健活動の課題	伊勢田 堯	2008/11	PHNブックレット7 萌文社
	無名の語りー保健師が「家族」に出会う12の物語ー	宮本ふみ		医学書院

- (2) 事前課題その2:「実践内容記入シート(様式1)」「実践計画記入シート(様式2)」を作成する (110ページ)

受講者は、自己の選択したテーマにおいて、これまでの実践とその結果について、以下の視点で整理分析を行い、その結果をもとに課題を抽出し、実践計画(試案)を策定する。

- ① 健康課題の根拠となるデータ等の整理分析
- ② 法的施策的情報整理
- ③ これまでの取り組み、関連事業の総括

## ■事前課題 実践内容記入シート(様式1)記載項目

### I. 実践テーマ(タイトル)

平成24年1月の後期プログラムまでに実践が可能なテーマに絞ってご記入ください。

### II. 実践内容

#### 1. 担当する地域の健康に関するデータ等の整理・課題分析

- ・ 本プログラムで、あなたが取り組む実践テーマを中心に、基本となるデータや、課題と考える根拠となるデータやご自身の問題意識がより明確になるようなデータを記載してください。
- ・ 前述の実践データを、ご自身がどのように読み取っているのかもご記入ください。

#### 2. 法的施策的情報整理

- ・ あなたが取り組むテーマに関連、もしくはご自身の実践に観連して活動の根拠となる法令・通知・要綱等や指針、所属する組織等の内規や、それをどう判断して実践に反映させているか、理解している範囲でご記入ください。

#### 3. これまでの取り組み・関連事業の総括

- ・ あなたが取り組むテーマについて、これまでの自組織の取り組みの総括(経緯や要点を短くまとめたもの)、経過や実施内容、関連事業も含めて確認しながら、ご記入ください。
- ・ その際、対象者の反応、事業の評価、自組織の活動実績、振り返り等も含めてご記入ください。

※この「実践内容記入シート」は、受講者が毎回加筆修正を重ね少しずつ完成度を高めながら、最後に成果物として事務局に提出するものである。

※課題解決に向けては、自組織の同僚・上司・関係者に理解を求め、「受講者が一人で行うのではなく、中堅期保健師として組織的に取り組むことに留意する。」ように促した。

本コンサルテーションプログラムでは、受講者に対し、以下の様式に従って計画表を作成するよう促した。(103ページ以降 記入要項参照)

実践計画記入シート（様式2）と実践計画記入例

「実践計画記入シート」には、今後課題解決に向けて取り組む内容のタイムスケジュールを記入する。

内容	実施内容	実施 (者・部署・機関等)	協力 (者・部署・機関等)	8	9	10	11	12	1	2	備考
				月	月	月	月	月	月		
①地域データ等の整理分析	H22年度の要介護者の疾病状況、認知症自覚度のデータの確保	長寿福祉課 介護保険係	地域包括支援センター	←	→						
	インフォーマルサービスについての調査・集約	地域包括支援センター	地域住民 ケアマネジャー			←	→				
	④、⑤の聞き取り調査の結果をまとめる	地域包括支援センター	長寿福祉課 地域支援係			←	→				
②法的施策的 情報整理	第5期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定に伴い、事業の評価・方向性を見出す	長寿福祉課 介護保険係 高齢者支援係 地域支援係 各地域包括支援センター	健康推進課	←	→						
③これまでの 取り組み、関連 保健事業の総 括	二次予防高齢者把握事業の実施（軽度認知症候補者にはできるだけ全戸訪問）	各地域包括支援センター 長寿福祉課 地域支援係			←	→					
	脳の老化度判定、認知症相談の実施 軽度認知症ケアの実施	地域包括支援センター	NPO法人 認知症相談医	←	→						
	各地域、団体の健康教育の場での認知症予防の啓発	地域包括支援センター	長寿福祉課 地域支援係	←	→						
④対象者聞き 取り訪問と事 例検討	日々の相談・訪問の中で対象者の思い・環境・認知症の経過を把握する	包括支援センター	対象者・家族	←	→						
⑤関係する機 関・者への聞き 取り訪問	団体、機関へ現在の活動・また高齢者の支援にいたった経緯（ニーズ）を中心に聞き取りを行う	包括支援センター	社会福祉協議会 NPO 団体 シルバー 地域サロン ボランティア団体 配食、移送サービ ス会社 地域サロ ン 地域見守りネ ットワーク他	←	→						
⑥組織的活動 計画・実施	キャラバンメイト支援 キャラバンメイトの交流会実施・協議会の検討	長寿福祉課 地域支援係 包括支援センター		←	→						

※保健事業の実施においては、事業の目的・目標、健康課題、対象、実施方法・時期、必要な資源、予算、経費、評価の視点、運営上の課題、進行計画など、様々な点を検討・熟慮し、計画書(企画書)に盛りこみ、成果を上げることが期待されている。

#### 4. 集合プログラムへの参加と自組織での実践

---

受講者は、事前課題に取り組むことで、テーマ別の最新情報や自組織での取り組むべき課題を明確にし、モチベーションを高くしたうえで集合プログラムに臨む。

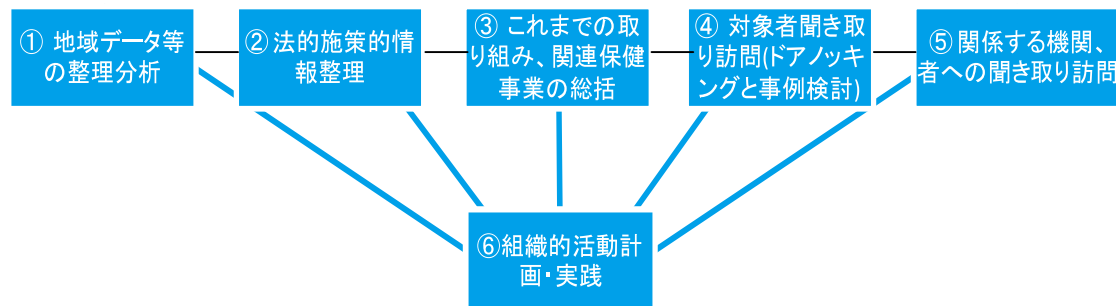
- 1) 集合プログラムの内容（13ページ参照）
  - (1) 中堅期の保健師として理解すべき事項や各テーマの課題の要点、実践計画の作成や組織での実践に当たり留意すべき点などについては、各期集合プログラムの講義で補う。
  - (2) 事前課題で提出した「実践内容記入シート(様式1)」(資料110ページ)にまとめた内容をもとに、コンサルタントから指導助言を受けながら、実践計画(様式2)を修正し、実践の見通しを立てる。
  - (3) 自組織での実践結果をもとに資料化した内容について、コンサルタントによる助言を受けながら評価・計画修正をし、それを発表・討議する。
- 2) 自組織での実践
  - (1) 受講者は、前期プログラムを受講後、次のプログラムに向け、自組織での実践を行う。
  - (2) さらに自組織での実践を資料化し、次の集合プログラムに臨む。
  - (3) グループ単位で学び合った内容を自組織での政策提言につなげる。

#### 5. 「能力強化のための実践」について

---

受講者は、集合プログラムと自組織での実践の繰り返しにより、自己の課題に対しその内容を深く掘り下げて考え、中堅期保健師としての能力を強化していく。

「能力強化のための実践」は、以下①～⑥を自組織の仲間と共同で取り組むこととする。



①～⑥の実践を通し、地域の健康課題の本質をつかみ現象への具体策を講じる実践力を身につける。また、中堅期保健師としての自己の強みや弱み、役割や課題を考え試行錯誤するプロセスを重視する。

以下に、能力強化のための具体的に実践すべき内容を示す。

(表1 能力強化のための活動)

能力強化の項目	実践内容
①地域データ等の整理分析	各指標について、単年のみでなく、経年的、或いは法改正時等定点を設定し推移をみる
②法的施策的情報整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連法について、法文そのもの、また伴う通知、要綱等の原文にあたる</li> <li>・ 情報が各所属でどのように扱われているかも確認する</li> </ul>
③これまでの取り組み、関連保健事業の総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該事業推進の経緯を確認する</li> <li>・ 参加者の反応や広がりを見る</li> <li>・ アウトカム評価の考え方を振り返る</li> <li>・ 保健師自身の活動実績も自己チェックする(訪問件数、地域への出動回数等々)</li> <li>・ 他の保健師の取り組み状況や問題意識も確認する</li> </ul>
④対象者聞き取り訪問(ドアノッキング)と事例検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該健康課題の当事者のプロセスを聞き、実態把握する</li> <li>・ 当事者のその時々認識を確認する</li> <li>・ プロセスの中で、利用した保健サービスやその評価も聞く</li> <li>・ 対象者との人間関係を築く</li> </ul>
⑤関係する機関、者への聞き取り訪問	当該健康課題に関係する機関・者の各取り組み状況や課題認識を聞く
⑥組織的活動計画・実践	能力強化のための左記項目①～⑤を踏まえ、自分の問題意識を再確認修正し、左記⑥を複数の仲間と行う

## 6. コンサルテーションプログラムの内容

事前課題から始まるコンサルテーションプログラムの全内容を次ページに示す。



## 中堅期保健師コンサルテーションプログラム(行政分野)

### ① 事前課題

- 課題図書を読む
- テーマ別の最新の動向(知識・技術・関連法・社会情勢等)を調べる
- 「実践内容記入シート」の記入
- 「実践計画記入シート」の記入
- 「個人評価チェックシート」の記入



### ② 前期プログラム 8月8日(月)、9日(火)

#### <目標>

- 保健活動推進のために、必要な知識や技術を習得する
- 課題テーマとする健康課題を構造的に捉え直すことができる
- 保健活動実践を進めるための計画を作成し、活動の見通しをたてる
- 中堅期保健師に求められる力量が自覚できる

8月8日(月) 9:30-17:30 (7時間) 【前期プログラム 1日目】

	時間	形式	内容	講師・発表者等	ねらい
	9:10			(開場)	
全体	9:25-9:30		オリエンテーション		
	9:30-9:35		開会・関係者紹介	日本看護協会/事業開発部	
	9:35-9:50 (15分)	挨拶	挨拶	日本看護協会/会長 坂本すが	
	9:50-10:05 (15分)	挨拶	保健師の現任教育について	厚生労働省健康局総務課 保健指導室 室長補佐 石原美和	
	10:05-11:05 (60分)	講義	保健師活動強化コンサルテーション事業について ・ コンサルテーションプログラムの目的 ・ 中堅期保健師の役割 ・ コンサルテーションプログラムの進め方	日本看護協会/常任理事 井伊久美子	中堅期保健師に求められる役割を理解し、本コンサルテーションプログラムの目的と、進め方が理解できる
テーマ別	11:05-12:00 (55分)	グループワーク	受講者の自己課題と計画紹介 (自己評価チェックシートの確認含む) (7分×3~4名) 助言	受講者 コンサルタント	各参加者の問題意識と課題について共有する
	12:00-13:00 (60分)			(昼食)	
全体	13:00-13:40 (40分)	講義	母子保健活動 (講義+質疑応答)	国立保健医療科学院生涯健康研究部/主任研究官 中板育美	○公衆衛生看護を基盤としたテーマ別の専門能力の強化  ・ テーマ別の最新の動向を知る ・ 中堅期保健師としての必要な知識と技術の習得 ・ 自己の課題が認識できる (中堅期保健師として、社会情勢や地域社会の現状を判断し、事業展開していくロールモデルを知る)
	13:40-14:20 (40分)	講義	メンタルヘルス活動 (講義+質疑応答)	愛知県立大学看護学部看護学科/教授 佐久間清美	
	14:20-14:30 (10分)			(休憩)	
	14:30-15:10 (40分)	講義	生活習慣病予防活動 (講義+質疑応答)	日本看護協会/常任理事 井伊久美子	
	15:10-15:50 (40分)	講義	介護予防活動 (講義+質疑応答)	日本看護協会/ 保健師職能委員会副委員長 堀井とよみ	
	15:50-16:00 (10分)			(休憩)	

	16:00-17:30 (60分)	講義 グループ ワーク 全体討議	災害時の保健師活動 ・災害時の保健師活動(全般)(30分) ・災害時における市町村保健師の役割 (30分)	日本看護協会／常任理事 井伊久美子 新潟医療福祉大学健康科学 部看護学科／准教授 宇田優子	
	17:30		2日目の予定について	事業開発部	
	課外	個別 作業	実践計画の見直しと修正		習得した情報や知識を実践計画 に反映することができる
8月9日(火) 9:30-15:00 (4.5時間)【前期プログラム 2日目】					
	時間	形式	内容	講師・発表者等	ねらい
	9:10			開場	
	9:25-9:30		オリエンテーション		
全体	9:30-10:30 (60分)		実践事例発表	肝付町地域包括支援センター/ 能勢 佳子 枚方市健康部 保健センター/ 橋本美弥子	実践を進めるためのイメージを 共有でき、保健活動実践の見通し がたてられる
テーマ別	10:30-12:00 (90分)	グループ ワーク	各自の実践計画の修正 各自の実践計画の修正点について のディスカッション	受講者 コンサルタント	1日目の講義で習得した内容とグ ループディスカッションを通し て自分の実践計画に反映させる
	12:00-13:00		昼食		
全体	13:00-13:15 (15分)	発表	実践計画の発表 ・母子保健1人 発表7分 助言8分	発表者：受講者 助言者：コンサルタント	他者の発表を聞き実践計画の実 施にむけ、具体的な実践のイメ ージができる
	13:15-13:30 (15分)	発表	実践計画の発表 ・生活習慣病予防1人 発表7分 助言8分		
	13:30-13:45 (15分)	発表	実践計画の発表 ・介護予防1人 発表7分 助言8分		
テーマ別	13:45-14:45 (60分)	グループ ワーク	各自の実践計画の再修正 質疑応答・助言	受講者 コンサルタント	自己の実践計画に対してのコン サルタントからの助言を受ける ことで、地域の健康課題に対応 した中堅期保健師としての役割 や課題をふまえた計画に修正で きる
全体	14:45-15:00 (15分)	講義	事務連絡・アンケート	日本看護協会 事業開発部	



### ③ 実践の場(8月)

#### <目標>

#### ○ テーマの健康課題を構造的に捉え直す

- ・ 担当する地域の健康に関するデータ等の整理・課題分析
- ・ 法的施策の情報整理
- ・ これまでの取り組み・関連事業の総括



課題提出：8月23日(火)12:00 提出〆切



④ 中期プログラム I 8月31日(水)

<目標> ○ 自己の実践経過をまとめ、今後の活動計画とその実践について見通しをたてる					
8月31日(水) 9:30-17:00 (6.5時間)					
	時間	形式	内容	講師・発表者等	ねらい
	9:10		(開場)		
全体	9:25-9:30		オリエンテーション・関係者紹介		
	9:30-9:40 (10分)	講義	本日のコンサルテーションプログラムについて	日本看護協会／常任理事 井伊久美子	
テーマ別	9:40-12:00 (140分)	グループ ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践内容の発表</li> <li>実践の振り返り</li> <li>困難点や疑問点のまとめ</li> <li>・ 質疑応答</li> </ul>	発表者：受講者 助言者：コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者同士の課題や方向性を共有する</li> <li>・ 他者の発表を通して自己の実践を振り返る</li> </ul>
	12:00-13:00 (60分)		(昼食)		
全体	13:00-14:00 (60分)	発表	実践計画・実践内容の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子保健(10分×1名) 10分質疑</li> <li>・ 生活習慣病(10分×1名) 10分質疑</li> <li>・ 介護予防 (10分×1名) 10分質疑</li> </ul>	発表者：各テーマからの代表者 助言者：コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他分野の実践事例を全体で共有する</li> <li>・ 他者の発表を通して自己の実践を振り返る</li> </ul>
	14:00-14:10 (10分)		(休憩)		
全体	14:10-15:10 (60分)	グループ ワーク 意見交換 助言	意見交換(実践を通して中堅期としての自己を振り返る) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループでの意見交換</li> <li>・ 全体での意見交換</li> <li>・ オブザーバーからのコメント</li> </ul>	進行： 日本看護協会／常任理事 井伊久美子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期プログラム開始から現在までの実践を振り返り、中堅期保健師として自己を振り返る</li> </ul>
	15:10-15:20 (10分)		(休憩)		
テーマ別	15:20-16:50 (90分)	グループ ワーク	コンサルテーション	助言者：コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健活動推進にあたり出現する困難点・疑問点の解消を図る</li> <li>・ 他者との意見交換を通じ実践の方向性の確認をする</li> </ul>
	16:50-17:00 (10分)		事務連絡		



⑤ 実践の場(9月)

<目標> ・ 家庭訪問や面談を実践し、課題テーマの健康課題を構造的に捉え直す <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当事者聞き取り訪問と事例検討</li> <li>・ 関係する機関、者への聞き取り訪問</li> </ul> ・ 組織的活動計画・実践(関係職種と連携した保健師活動の実践)
--



課題提出：9月21日(水)12:00 提出〆切



⑥ 中期プログラムⅡ(各テーマ別コンサルテーション) 9月30日(金)

9月30日(金) 9:30-17:00 (6.5時間)					
	時間	形式	内容	講師・発表者等	ねらい
	9:10			(開場)	
全体	9:25-9:30		オリエンテーション		
	9:30-9:50 (20分)	講義	本日のコンサルテーションプログラムについて	日本看護協会／常任理事 井伊久美子	
テーマ別	9:50-11:50 (120分)	グループワーク	・実践内容の発表 実践の振り返り 困難点や疑問点のまとめ ・質疑応答	発表者：受講者 助言者：コンサルタント	・参加者同士の課題や方向性を共有する ・他者の発表を通して自己の実践を振り返る
	11:50-12:50 (60分)			(昼食)	
全体	12:50-13:50 (60分)	発表	実践計画・実践内容の発表 ・母子保健(10分×1名) 10分質疑 ・生活習慣病(10分×1名) 10分質疑 ・介護予防(10分×1名) 10分質疑	発表者：各テーマからの代表者 助言者：コンサルタント	・他分野の実践事例を全体で共有する ・他者の発表を通して自己の実践を振り返る
	13:50-13:55 (5分)			(休憩)	
全体	13:55-14:55 (60分)	講義	実践事例発表	奈良市保健所健康増進課 永松 晶子  竹田市健康増進課 内柳知恵美	実践を進めるためのイメージを共有でき、保健活動実践の見通しがたられる
	14:55-15:00 (5分)			(休憩)	
テーマ別	15:00-16:50 (110分)	グループワーク	コンサルテーション	助言者：コンサルタント	・保健活動推進にあたり出現する困難点・疑問点の解消を図る ・他者との意見交換を通じ実践の方向性の確認をする
	16:50-17:00 (10分)		事務連絡		



⑦ 実践の場(10月～11月)

<目標>

- 軌道修正した活動計画に基づき保健活動を継続実践する
- 評価の方向性と評価に必要なデータ収集について見通しを立てる



課題提出：11月21日(月)12:00 提出〆切



⑧ 中期プログラムⅢ(各テーマ別コンサルテーション) 11月30日(水)

<目標> ○ 自己の実践経過をまとめ、今後の活動計画とその実践について見通しをたてる					
11月30日(水) 9:30-17:00 (6.5時間)					
	時間	形式	内容	講師・発表者等	ねらい
	9:10			(開場)	
全体	9:25-9:30		オリエンテーション		
	9:30-9:50 (20分)	講義	本日のコンサルテーションプログラムについて	日本看護協会/常任理事 井伊久美子	
テーマ別	9:50-12:00 (130分)	グループワーク	・実践内容の発表 実践の振り返り 困難点や疑問点のまとめ ・質疑応答	発表者：受講者 助言者：コンサルタント	・参加者同士の課題や方向性を共有する ・他者の発表を通して自己の実践を振り返る
	12:00-13:00 (60分)			(昼食)	
全体	13:00-14:00 (60分)	発表	実践計画・実践内容の発表 ・母子保健(10分×1名) 10分質疑 ・生活習慣病(10分×1名) 10分質疑 ・介護予防 (10分×1名) 10分質疑	発表者：各テーマからの代表者 助言者：コンサルタント	・他分野の実践事例を全体で共有する ・他者の発表を通して自己の実践を振り返る
	14:00-14:10 (10分)			(休憩)	
全体	14:10-15:10 (60分)	講義	保健活動の企画・実施・評価～保健活動の可視化を目指して～	国立保健医療科学院生涯健康研究部/主任研究官 中板育美	実践経過を総括・評価(企画評価、実施評価、結果評価)する方法が理解でき、実践の成果と新たな課題を提示し、政策提言ができる能力を強化する
	15:10-15:20 (10分)			(休憩)	
テーマ別	15:20-16:50 (90分)	グループワーク	コンサルテーション	助言者：コンサルタント	・保健活動推進にあたり出現する困難点・疑問点の解消を図る ・他者との意見交換を通じ実践の方向性の確認をする
	16:50-17:00 (10分)		事務連絡		



⑨ 実践の場(12月～1月)

<目標> ○ 軌道修正した活動計画に基づき保健活動の継続実践する ○ 評価の方向性と評価に必要なデータ収集について見通しを立てる	
--	--



課題提出：1月17日(火)12:00 提出〆切



⑩ 後期プログラム 1月27日(金)、28日(土)

＜目標＞					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の実践を振り返り中堅期保健師としての力量形成につながった要件を明確にする</li> <li>・ 実践経過を総括・評価しその成果と新たな政策課題を提案することができる能力を強化する</li> </ul>					
1月27日(金) 9:30-16:00(5.5時間)【後期プログラム 1日目】					
	時間	形式	内容	講師・発表者等	ねらい
	9:10	(開場)			
	9:25-9:30		オリエンテーション		
全体	9:30-10:30 (60分)	講義	本プログラムの実践プロセスの意義の再確認と「聞き取り訪問」での個別事例からの読み取りについて	日本看護協会／常任理事 井伊久美子	本プログラムの実践プロセスの意義の再確認と「聞き取り訪問」を通じた個別事例からの読み取りについて
	10:30-10:40 (10分)	(休憩)			
テーマ別	10:40-12:00 (80分)	グループワーク	活動成果の発表と共有(グループワーク1) ・ 活動成果発表 実践の振り返り(総括と評価) ・ 質疑応答 ・ コンサルテーション	発表者：受講者 助言者：コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者同士の活動成果や今後の方向性を共有する</li> <li>・ 他者の発表を通して自己の実践を振り返る</li> </ul>
	12:00-13:00 (60分)	(昼食)			
テーマ別	13:00-14:00 (60分)	グループワーク	活動成果の発表と共有(グループワーク2) ・ 活動成果発表 実践の総括と評価から、自組織への政策提言もしくは今後の「組織的活動計画・実践」の内容は見てきたか。それがみえた体験(実践や結果)とはなんであったか。政策提言につなげるためには、今後更に何が必要か。 ・ 質疑応答 ・ コンサルテーション	発表者：受講者 助言者：コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践経過を総括・評価(企画評価、実施評価、結果評価)し、その成果と新たな課題を提示し、政策提言ができる能力を強化する</li> </ul>
	14:00-14:10 (10分)	(休憩)			
全体	14:10-16:00 (110分)	発表	活動成果の発表 (自組織への政策提言のプレゼンテーション) ・ 母子保健(10分×2名+10分質疑・助言) ・ 生活習慣病(10分×1名+10分質疑・助言) ・ 介護予防(10分×2名+10分質疑・助言)	発表者：各グループからの代表者 助言者：コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者同士の活動成果や今後の課題や方向性を共有する</li> <li>・ 他者の発表を通して自己の実践を振り返る</li> </ul>
1月28日(土) 9:30-15:30(5.0時間)【後期プログラム 2日目】					
	9:10	(開場)			
	9:25-9:30		オリエンテーション		
全体	9:30-10:10 (40分)	講義	保健師業務の現状と課題	日本看護協会／常任理事 井伊久美子	
テーマ別 全体	10:10-12:00 (110分)	個人ワーク グループワーク	コンサルテーションプログラムでの6ヶ月間の実践内容を振り返り、「保健師に必要な能力は何か」を本プログラムでの実践を通して改めて考える。	(進行) コンサルタント	自己の実践を振り返り中堅期保健師としての力量形成につながった要件を明確にする

		発表 全体討議	<p>①「能力強化のための活動」で自分が実施したこと、その意味、そこから得た中堅期保健師としての学びを振り返る。</p> <p>②「能力強化のための活動」で自分が実施できなかったこと、その理由、そこから得た中堅期保健師としての学びを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人ワーク (15分)</li> <li>・ グループワーク (20分)</li> <li>・ 全員発表 (1人2分=30分)</li> <li>・ 全体討議 (45分)</li> </ul>		「保健師に必要な能力は何か」を自己の実践を通して改めて考え、言語化することで、自己の保健師像を確立し、モチベーションの向上やアイデンティティの強化につなげる
	12:00-13:00 (60分)	(昼食)			
テーマ別 全体	13:00-13:50 (50分)	発表 全体討議	<p>今後の継続的な研鑽をどう進めるか</p> <p>①自分が実施できなかったことを実施するためにはどのようなことが必要か。</p> <p>②研修後もモチベーションを維持していくためにはどのようなことが必要か</p> <p>③保健師としての力量形成のためにはどのような研鑽が必要か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員発表 (1人1分=15分)</li> <li>・ 全体討議 (35分)</li> </ul>	(進行) コンサルタント	自己の実践を振り返り中堅期保健師としての力量形成につながった要件を明確にし、今後の自己の力量形成に必要な研鑽のあり方について見通しを立てることができる
	13:50-14:00 (10分)	(休憩)			
全体	14:00-14:40 (40分)	助言	中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員よりコメント	「中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員会」委員	
	14:40-15:30 (50分)	総評	コンサルタントより 10分×5名	コンサルタント	
	15:30	(閉会)			



最終課題の提出 2月3日(金)12:00 提出×切



修了証の発行



合同拡大会議(成果報告) 3月3日(土)



実践の継続・発展  
(実践力の向上へ)